

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2015 年 4 月 25 日 VOL.38 第 273 号 定価 550 円
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail: member@amda.or.jp
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2015 年
春号

春

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ

第4回 片岡 聡一様 (岡山県総社市市長)

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>
 AMDA 兵庫
http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/

真の多文化共生に向けて 「AMDA」との出会い

AMDA 本日は貴重なお時間を頂き、ありがとうございます。まずは AMDA との出会いをお聞かせください。

片岡 倉敷出身で同じ青山学院大学の先輩であり恩師でもある泰緬鉄道の永瀬隆氏から、「面白いヤツがいるから」と紹介されたのが若き日の菅波先生でした。当時、菅波先生がおっしゃっていた「西のジュネーブ、東の岡山」という言葉。初めて聞いたときは驚きました。しかし、故・橋本龍太郎総理大臣の秘書官として、大臣とともに世界を飛び回りデンバーやバーミンガムでのサミットを経験。世界のトップの方々の物の見方・考え方などに触れることを経て、この言葉に現実味を感じるようになりましたね。

時はめぐる 人間は会うべくして会っている

片岡 1996 年、橋本総理に同行した日伯首脳会談の際、ブラジルのカルドゾ大統領に同行した政府団の中に、後に駐日大使となられたカストロ・ネーベス氏がいらっしゃいました。ネーベス氏が日本大使として来日されたのと同じくして、私も総社市長となりました。総社には在日ブラジル人の方が非常に多いということで、政策の一つに「真の多文化共生」を掲げました。



AMDA・総社市合同ブラジル洪水支援チームを見送る片岡市長

鎖国、出島のような外交手段をしてきた日本にとって、「真の多文化共生」には非常に抵抗がある

AMDA ジャーナル 2014 年夏号から連載をスタートさせたインタビューシリーズ「支える喜び」。AMDA を支えてくださっているご支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお話ししています。2015 年度最初のインタビューは、「多文化共生」に積極的に取り組み「大規模災害被災地支援に関する条例」の制定など、様々な先駆的取り組みをされている自治体・岡山県総社市の片岡聡一市長にお話を聞きました。



ように感じます。しかし、総社市の取り組みによって、総社市民とブラジル移民の方々が成功事例を作ることができれば、それが一つのメッセージになるのではないかと考えました。AMDA が持っている「国連経済社会理事会総合協議資格」を以って、この成功事例を NY の国連本部に政策提言できるのではないかと。そんな話を菅波先生と話していました。2009 年に AMDA グループと総社市が「多文化共生に関する協定」を締結し、改めて AMDA と市長との関係がスタートしました。2010 年 3 月にはネーベス氏を総社にお招きし「多文化共生の在り方について考える記念フォーラム」を開催しました。こうして見ると「時はめぐるし、人間は会うべくして会っている」と感じますね。

大規模災害被災地支援 に関する条例の制定

AMDA ユニークな取り組みの一つとして 2013 年 12 月に可決された「大規模災害被災地支援に関する条例」がありますね。

片岡 秘書官時代、南米などで日本の ODA で建設した病院を見学する機会がありました。日本の ODA が、現地の困っている方々を救っており、大きな感謝の気持ちが寄せられていることがわかりました。しかしながら、日本人としてそれを知っている人はあまり多くありません。国家予算における ODA 予算を「無駄だ」という声も聞きますが、決して無駄ではありません。「大規模災害被災地支援に関する条例」は自治体の枠を超えて、困っているところがあれば支援に行くという、まさに市町村型の ODA と

考えられるのではないかと感じています。地域の方々が「困った人を見捨てない」「困った人に手を差し伸べる」ということを当然のように受け入れ、その大人たちの姿を、子どもたちが見て育っていくのです。

AMDA 自治体を超えた「相互扶助」の精神が、世代を超えた「相互扶助」につながっていきますね。

経験に基づく直感 これからも AMDA とともに

AMDA 総社市が進めておられるユニークな政策はどこから発案されるものなのでしょうか？

片岡 私は、即時に決められないことは、100 年かかっても決められないと思っています。菅波先生も逡巡されませんよね。僕もそうなんです。「経験」に基づく「直感」。実際、私が市長 1 年目の時より、今の方が判断が早くなっていると実感しています。秘書官時代から培ってきた世界観を持ちながら、現在の総社市長に臨めていることは、大きな意味のあることだと感じています。菅波先生が AMDA での 30 年以上の活動を通じて培ってこられた「直感」とともに、これからも総社市民とともに、困っている被災地のみなさんの支援を実施したいと思います。

南海トラフなど今後起こりうる大災害への備えについても具体的なイメージを持って、「想定外を想定内に」。「想定外」という言葉を使わなくて済むように、準備していきたいと思っています。

AMDA 心強いメッセージをありがとうございました。今後とも引き続きよろしくお祈りします。

東日本大震災復興支援事業

震災から4年が経過しました。2015年3月11日14時46分。ちょうど発災から4年となったこの日、事務所でも、フィールドに出ているスタッフも、それぞれの場所で黙とうをささげました。

現在も復興の途中にある東日本大震災の被災地に対して、AMDAでは、「第2次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱とした、様々な復興支援事業を継続しています。

AMDA 大槌健康サポートセンター

「町民のこことからだの健康をサポートするふれあいスペース」として運営を行っているAMDA大槌健康サポートセンターは、地元大槌町出身、大槌町在住のスタッフによって運営されています。コミュニティスペースと鍼灸院を併設した、複合的なセンターとして、2011年12月の開所から、活動を継続しています。

コミュニティスペースでは、地域の方の心身健康、食生活の改善、子育て支援、運動促進などに着目した「教室」や「イベント」を行っています。2014年度のコミュニティスペースの利用者総数はのべ1,394人となりました。

また併設の鍼灸院では、ゆっくりと話をしながら鍼灸治療を行うことで、利用者の心身の健康増進につながっています。さらに鍼灸師が講師となって行う健康体操教室も人気です。2014年度の鍼灸院の利用者はべ1,399人となりました。

震災からの復興に向けて5年目に入った大槌のスタッフ3名からメッセージが届きましたのでご紹介させていただきます。

5年目に向かって センター長 佐々木賀奈子

あつという間だったような、重く長かったような4年間でした。この3月11日に町内で開催された慰霊祭に出席し、その帰り道は、亡くなった患者さんや親戚、友達の顔を想い出しながら歩きました。それぞれの家があった辺りを通る時は、手を合わせてきました。

震災から毎年、3月11日には亡くなった親友の家の跡地に行き、手を合わせていましたが、今年の3月11日、彼女の家のあった場所は、グラウンドとして埋め立てられています。グラウンドの中に入り、確かこの辺りだったというところで、手を合わせてきました。

町の風景はあの日から大きく変わりましたが、どんな形になろうが、私たちの故郷には変わりありません。

震災のことを振り返ると、あの時もつと何か出来たのでは、一人でも、あともう一人でも助けられなかったかと、自分自身を責める思いがこみ上げてきます。でも、その思いを抱えているからこそ、今出来る事をさせていただこうと強い思いがこみ上げてきます。

時間の経過と共に、町内の方々の考え方には大きな温度差がでてきた様に感じています。だからこそ、私は一人ひとりに寄り添いながら、5年目に向かって行きたいと思います。

この場をお借りして、ご支援頂いている皆様への心から感謝申し上げます。

震災から4年を迎えて スタッフ 大久保彩乃

いつも東北を想いご支援してくださる皆様に心より感謝申し上げます。

震災から4年が過ぎ、現在の大槌町内はここ数か月の間で、土盛りが進み、以前の町の姿を知っている町民すら、以前の町が分からない地形となっています。

「やっと」工事が進みはじめたと思う一方で、自分の記憶でしか残らない震災前の風景に寂しさも感じます。

今年は4年前と同じ場所に立ち、黙とうをささげました。4年前に見た、あの悪夢のような光景と恐怖心。それを思い出しながらも、津波が町を襲った時刻を過ぎると、一転して、只々空しさだけがこみあげてくる4度目の3月11日となりました。

確かに見えてきている町や建物などの「再建」。しかし「再建」だけが復興だとは思っていません。これから町民の方々に寄り添い、皆さんと笑って過ごしたいと思っています。



AMDA 大槌健康サポートセンタースタッフ
写真左から大久保、佐々木（鍼灸師）、菅谷

“あの日”から… スタッフ 菅谷安美

2015年3月11日。忘れもしない“あの日”から、4年の月日が経過しました。

もう4年。まだ4年。人それぞれ感じ方は違いますが、確実に言えることは、震災の風化が進む一方で、復興への道のりは未だ遠く長いということです。

今年の3月11日。町を一望できる場所から、黙とうし、目を閉じると、大切な人たちの笑顔、大好きな町並みが目の奥に浮かびました。

「復興とは何か」と、自分自身に問い続ける日々ですが、これからもみんなで手を取り合いながら、ゆっくり歩いていけたらと思います。

被災地に想いを寄せてくださるすべての方に、感謝の気持ちを込めて。

AMDA 大槌健康サポートセンター ホームページ開設!

毎月の行事予定や、スタッフのブログ、チャレンジショップのご案内など情報満載!ぜひご覧ください。

<http://kensapo.jimdo.com/>

AMDA 支援農家による震災ホームレス支援

AMDAの活動を農産物の提供を通じて支援する「AMDA 支援農家」の皆様のご協力により、2014年度は米1550kg、卵1000個を55農家の方から提供頂くことができました。これらは全て、NPO法人「仙台夜まわりグループ」を通じて、震災の2次的被災者とも言われる「震災ホームレス」の方の支援に提供させて頂きました。



被災地鍼灸支援活動

復興支援事業の一つとして、岩手県大槌町、宮城県石巻市雄勝町でそれぞれ地元鍼灸師の協力を得て、地域住民のための鍼灸治療を続けてきました。

石巻市雄勝町での仮設住宅の談話室などを活用した巡回による無料鍼灸プロジェクトの実施は、地元石巻市出身の吉田鍼灸師の協力のもと2012年4月から試験的にスタートしました。2012年9月から有料治療に切り替え、週に2回のペースで実施し、3月末まででのべ1,314人の患者を治療しました。

取り組みから3年。2015年4月からは吉田鍼灸師が本事業を引き継ぎ、鍼灸治療活動を継続して下さることになりました。吉田鍼灸師からの声をお届けします。



鍼灸治療を行う吉田鍼灸師

3年間の活動を振り返って
鍼灸師 吉田 保

2015年3月末をもって、AMDAとして約3年にわたり実施してきた、雄勝町での訪問鍼灸プロジェクトを無事に終えることができました。

この3年の間、訪問鍼灸を続けるのが困難になりそうな時もありましたが、住民の方に必要とされ、喜んでいただいていた事が、私の原動力となり続けてこれたのだと感じます。

最初は鍼灸治療を受けることが未経験という患者の方がほ

とんどで、恐怖心を抱いていた方もいた様ですが、今はそれも無くなり、体の調子が良くなると喜んでくださっています。

雄勝町の住民の方々をはじめ、AMDAのスタッフ、雄勝診療所の先生方、その他、ご協力をくださった関係者、支援者の方々には、大変お世話になりました。皆様のご協力無しには、ここまで続けることができませんでした。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

AMDAのプロジェクトとしては、終了いたしました。今後はいち鍼灸師として、値段設定を改め、雄勝町で需要がある限り、訪問鍼灸を続けていきたいと思っております。

アムダフードプログラム アジア有機農業技術移転プログラム

インドネシア スラウェシ島マリノ村へ有機農業技術者派遣

AMDA 野土路農場で半年間の有機農業研修を受けた研修生を中心として、2014年2月からインドネシアスラウェシ島マリノ村で有機農業の取り組みを進めています。第2回目となる有機農業技術研修のため、2014年11月13日から17日の5日間に渡り、AMDAスタッフと新庄村アジア有機農業連携活動推進協議会の技術者がマリノ村を訪れました。

研修会では、第1回研修で実施した炭や堆肥づくりの復習に加え、木酢液

の取り方と活用法、土着菌の利用方法と肥料の作り方、雨期と乾期に合わせた畝の作り方、はで干しの紹介などを行いました。特に土着菌は利用方法が簡単で、効果が期待できるため、参加者の方々の関心も非常に高く、熱心に研修に取り組んでいました。

最終日には、研修参加者や住民の近所の方達と一緒に、日本式の餅つきをし、文化交流も行われました。

5日間の研修を終え、熱心に参加した地元の農家の方々からは、「自分も是



はで干しの指導を行う様子

非日本のやり方を試してみたい」「新しい知識を教えてもらえてうれしい」などの感想が聞かれました。

フィリピン ルソン島へ有機農業技術者派遣



ワークショップの様子

AMDA、新庄村の合同プログラムとして2014年6月から約半年間、フィリピンから有機農業指導者を研修生として招へいし、有機農業の相互研修を行いました。

さらなる相互研修と有機農業技術の移転を目的とし、2月20日から3月1日の日程で、AMDAスタッフ、新庄村の有機農業技術者が、フィリピンのルソン島を訪れました。主に有機農業の基本となる土づくりに必要な太陽熱養生処理や、わらを使った堆肥化促進方法などのワークショップを実施。ワークショップでは来日していた研修生のほか、毎回20人を超える農家の方々が参加し、積極的な質問が飛び交いました。さらに参加者の方々と有機農業についての情報交換を行い、日本とフィリピンの農業の相違点やフィリピンの農家が直面する課題などについて、様々な

声を聴くことができました。

農業研修のほかにも、日本の食文化紹介として、お米と米麴を使ったどぶろくの作り方やサツマイモの天ぷらづくりを紹介、現地の参加者と一緒に行い、交流を図りました。

ワークショップの参加者からは「実際に土壌改良をする方法などは知らなかった。今回の研修では実際に土の酸性度を測り、どうやったら適正な酸性度に変えていけるのか、地元にある材料と一緒に身体を動かしながら土壌改良を行ったので、とてもわかりやすかった。ある資材をどう組み合わせれば良いかわかってよかった。」と喜びの声が聞かれました。

大洋州大型サイクロン「パム」被災者に対する緊急医療支援活動



被災地の様子（地元 AMDA 協力機関提供）

2015年3月11日から13日にかけて大型サイクロン「パム」が大洋州に大きな被害をもたらしました。

大洋州のパヌアツ共和国、ツバル、キリバス共和国、ソロモン諸島などの国々では、サイクロンの

上陸による強風や豪雨、高潮の被害のほか、地球温暖化による海面上昇が重なり、広範囲に洪水の被害が発生しました。

このような状況を受け、AMDA では地元関係機関と連携を取りながら現地の情報収集を開始。3月18日にはAMDA 看護師1名が岡山を出発し、クアラルンプールで調整員1名と合流して、オーストラリア経由で20日にフィジーに到着しました。被災のため各島と環礁を結ぶ交通網が混乱しており、さらには通信状況も不安定で情報収集が困難であったため、被災地に近く、大洋州のアクセス拠点でもあるフィジーで最新の情報収集を行い、必要な支援物資の購入などを行いました。

フィジーでの情報収集の結果、国家非常事態宣言が出されていたツバルでの支援を決定。24日には調整員1名がツバルへ入り、現地協力団体のスタッフと共に、停電が繰り返さ



れる中で支援物資の運搬と分別作業を行いました。日本からは唯一AMDA がツバルでの支援活動に入りました。

小さな島や環礁からなるツバルでは、チームの移動、物資の運搬などの交通手段確保が非常に難しく、また、この非常事態に対応すべく国家として支援物資などのとりまとめを行っていたことから、準備した経口補水液や浄化水生成剤などの医薬品をツバルの保健省に寄贈しました。また、災害対策本部には、支援が届きにくい離島の被災者に向けて、飲料水や食料品などの支援物資に充ててもらおうための支援金を手渡しました。これらの支援に対して「とても心強い支援です。遠い日本からわざわざ足を運んでくださり、心より感謝しています。」とのメッセージを頂きました。

【派遣者一覧】

*GPSP：世界平和パートナーシップの略

大政 朋子：AMDA GPSP*クアラルンプール事務所長/調整員

山崎 希：AMDA GPSP*インドネシア担当部長/看護師



支援物資を寄贈する様子

フィリピン台風30号復興支援事業 レイテ医師会館再建事業

2015年3月8日、AMDA、日本医師会、福山市医師会合同「レイテ島レイテ医師会館再建事業」が約4か月の工期を経て、開所式を迎えました。

これは2013年11月に発生した、フィリピン台風30号の復興支援事業の一つとして取り組んでいるものです。

台風被害が大きかったレイテ州タクロバン市では、地域医療で重要な役割を果たすレイテ医師会が、活動の拠点として活用していたレイテ医師会館も大きく被災しました。

災害前まで、医師会館では医療従事

者の臨床における継続教育、住民への健康教育、無料診療、医師会会合やレクリエーションイベントなどが行われていました。医師会館の再建は地域住民の医療環境整備に必要不可欠と判断されたことから、AMDA は日本医師会、福山市医師会の協力を得て、レイテ医師会会館再建に対する支援を決定しました。

2014年11月9日に行われた鍬入れ式から約4ヶ月。建物が完成し、無事開所式を行うことができました。完成した建物は災害の多いフィリピンにおいて、大きな災害に耐えうる鉄筋コンクリート造の2階建の建物。災害が再びフィリピンを襲った場合の緊急支援の拠点としても活用される予定です。

開所式当日は天候にも恵まれ、AMDA グループ代表菅波茂も出席する中、レイテ医師会館の前でテープカットとともに、セレモニーがスタートしました。さらに、日本医師会、福山市医師会か

らもお祝いのメッセージが寄せられ、参加したレイテ医師会のメンバーからは、支援に対する感謝の言葉が多く聞かれました。



BUNTIS DAY の様子

開所式を終え、3月10日には、早速、「BUNTIS DAY」と呼ばれる妊婦のためのイベントが新レイテ医師会館で行われ、妊婦に対する無料健診、ビタミン剤の配布、妊婦時の危険サインや妊娠婦ケアに関する講義が行われました。

今後も、新レイテ医師会館は地域の健康促進を目的としたイベントを中心に活用される予定です。



開所式典の様子

パキスタン 家庭教育プログラム 経過報告



未婚女性を集めて現地調査を実施

2014年6月からAMDA、茅ヶ崎中央ロータリークラブ、NRSPの合同事業として「パキスタン家庭教育プログラム」を実施しています。

これはパキスタンの未婚女性に健康教育を行うプログラムです。2013年9月にポリオの撲滅活動に関する現地調

査を行ったところ、ポリオ撲滅のためには母親になる女性の健康教育が重要であることが判りました。特に未婚女性に健康教育を行うことは、現在の家族、今後形成される家族の健康管理にもつながり、波及効果も見込めると考えました。

そこで2014年6月に茅ヶ崎中央ロータリークラブ、NRSP、AMDAで本プログラム実施に向けての合意文書を締結し、プログラムがスタートしました。

本プログラムの実施対象地区は、パキスタン シンド州タッタ地区。そこでさらなる現状調査を行い、住民の識字率、その他の状況を考慮しながら、講

師や受講生の教科書を作成。講師の選定も行い、講師を対象とした研修も実施しました。

2015年2月にはAMDA看護師がパキスタンを訪れ進捗状況の確認をすることができました。

文化的、宗教的な背景から、健康教育の受講をするためであっても未婚女性を村の外に出すことを認めない地域も含まれています。この場合でも、強要することはせず、今後、時間をかけて当プログラムの効果を説明し、未婚女性がプログラムに参加する意義や効果を理解してもらうことで、受講できるよう働きかけていく予定です。

インド AMDA ピースクリニック5周年式典とクリニック活動報告

2014年11月20日、インドのビハール州ブダガヤにあるAMDAピースクリニックにおいて開院5周年記念式典がおこなわれました。

AMDAピースクリニックは、日蓮宗太生山一心寺に隣接しており、海外からの観光客にアーユルヴェーダ治療を提供し、その収益を地元住民の医療サービスに還元していく形態で、2009年に設立されました。2014年からは、地域の妊産婦と新生児に対するケアのニーズが非常に高いこと、また周辺地域の子供の死亡率が高いことなどからアーユルヴェーダを中心とした治療活動から、母子保健に特化した医療施設として再出発しています。

5周年記念式典には、地元関係者および日本からの事業関係者が参加し、日蓮宗ご住職によって、当事業の発展

が祈願されました。また式典後には地元の子どもたちへ、奉納されたお菓子が配られました。



5周年式典での記念撮影

2015年2月10日から3月3日の約3週間、AMDA看護師がクリニックを訪問し、現地の看護師と一緒に活動しました。女性の社会的地位が低く、教育を受けていない人の多いこの地では、出産まで一度も受診することなく、自宅で分娩する女性がほとんどです。慢性的に貧血の妊婦も多く、ハイリスクの出産や育児になっている現状が見られます。

毎日、現地看護師やアシスタントと

共に、コミュニティに足を運び、妊婦の体調や乳児の様子を観察し、衛生面や栄養面などについてアドバイスをしました。さらに、妊産婦や乳児の必要な観察項目や記録について見直し、改善しました。

活動当初は、健診の重要性を理解してもらえず大変なこともありましたが、現在は常時30人程の母親たちの健康管理をしています。

今後は、コミュニティでの保健教育活動などにも力を入れ、さらなる母子の健康改善を目指しています。



妊産婦を戸別訪問

国外団体との連携協定を締結

ベトナム国防省管轄 175 病院

1月12日、ホーチミン市にてベトナム国防省管轄 175 病院と災害救援活動や緊急人道支援などに協力することを目的とした協力協定を締結しました。



バリアブントウ大学 (ベトナム)

1月13日、バリアブントウ省にて災害救援、その他緊急人道支援活動や人材育成分野での協力を目的とした協定をバリアブントウ大学と締結しました。



NGO 台湾ルーツとの連携協定締結

2015年3月17日に台湾外交部(外務省)において、外務省 NGO 局長立ち会いの元、医療 NGO である台湾ルーツと災害支援協定を締結しました。



2015年1月～3月の動き

<講演>	内容	主催
1月17日	AMDAの活動について	岡山市立千種小学校・PTA
1月19日	AMDAさんに聞いてみよう!! 東北の今	おかやまコープ 岡山東エリア
2月1日	岡山市安全・安心ネットワーク「地域応援づくり」講座～防災分野～ 広島土砂災害の現状と対応	(公財)岡山市ふれあい公社 南ふれあいセンター
2月3日	キャリア教育 AMDAの目標及び仕事内容について	岡山市立千種小学校
2月6日	社会貢献活動(ボランティア活動)について考える「ボランティア活動の現状～AMDAの活動を通じて～」	岡山県立瀬戸高等学校
2月13日	倉敷南ロータリークラブ例会 卓話	倉敷南ロータリークラブ
2月17日	道徳の授業「国際理解とは?国際協力ってどのようなことなのだろう?」	笠岡市立笠岡西中学校
2月19日	総合的学習時間 国際貢献～今、自分たちにできること～ 世界の状況について	岡山市立石井小学校 6年生
2月23日	AMDAの活動について	岡山市立平津小学校
2月24日・27日	道徳の時間・総合的な学習の時間	岡山市立岡山中央中学校
2月27日	玉野ロータリークラブ例会 卓話	玉野ロータリークラブ
3月4日	DAIANJI PROJECT(総合学習)「海外支援について」	岡山県立岡山大安寺中等教育学校
3月18日・19日	道徳の時間・総合的な学習の時間	岡山市立岡山中央中学校

<大学講義>	内容	学校名
2月27日・3月2日・3日・4日	国際関係論(看護の国際協力)	福山市医師会看護専門学校

<イベント開催および参加、協力>		
1月24日・25日	第58回 2015春 洋蘭展(主催:岡山県洋蘭協会・日本蘭協会東中国支部、共催:AMDA)	
2月1日	倉敷アカデミックウィンズ定期演奏会(チャリティーコンサート)(主催:倉敷アカデミックウィンズ)	
2月1日	第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～(主催:AMDA)	
2月7日・8日	ワン・ワールド・フェスティバル(主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会(特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会))	
2月15日	第14回チャリティーコンサート 東ティモールの子供たちに未来と夢を!(主催:ストリートキルド 支援実行委員会)	
3月7日・8日	第4回東日本大震災復興支援ライブ2015(チャリティー)(主催:絆チャリティーライブ実行委員会)	
3月8日	東日本復興支援チャリティー・コンサート バイブオルガンに出会う日曜(主催:日本オルガニスト協会西日本支部)	
3月10日～15日	第4回東日本大震災復興支援のためのチャリティーオークション(主催:倉敷からの風)	
3月14日	第5回東日本復興支援チャリティー「Pray for 東日本 がんばろう日本 from bizen チャリティー備前焼販売」(主催:from bizen)	

<学校からの本部訪問>	
1月20日	岡山市立伊島小学校 6年2名

<AMDA 高校生会活動>	
1月12日・1月25日・2月15日・3月15日	高校生会定例会
3月14日	チャリティーイベント手伝い 3.15 募金活動(大洋州サイクロン)

お詫びと訂正
 2015年冬号「支える喜び」シリーズでラシャド・ファラ様の肩書に誤字がありましたのでお詫び申し上げます。
 元駐日ジブチ共和国全県大使⇒元駐日ジブチ共和国全権大使

多くの皆様からのご寄付本当にありがとうございます。
 恐れ入りますが、名前記載の誤り等がありましたら、事務局までお知らせください。
 よろしくお願ひします。

第 2 回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～ 開催報告

2月1日、岡山国際交流センター 8階イベントホールを会場に「第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震に備えて～」を開催しました。本フォーラムでは、今後起こりうる「南海トラフ地震」に備えて、東日本大震災の被災地、岩手、宮城、福島から商店街及びその関係者の方、また南海トラフ地震で被災が予想される四国から高知県、徳島県の自治体の方々が一堂に会し、東日本大震災での経験や知恵を共有し、将来に備えた具体的なディ

スカッションを行うことができました。また、フォーラムの後半のフリーディスカッションでは、具体的な発災を想定した支援活動のイメージを共有しながら、多くの方々からの、様々な提案をしていただきました。活発な意見が交わされる中、予定時間をオーバーしてのフォーラムとなりましたが、会場にお越しくくださった100人を超える来場者の皆様は最後まで熱心に耳を傾けてくださいました。フォーラムの最後には、「AMDA 南海



トラフ地震災害支援 岡山宣言」が読み上げられ、会場の大きな拍手で承認されました。

大規模災害に備えて 災害時連携協定の締結

2月2日、高知市、須崎市、黒潮町のそれぞれと「大規模災害時における支援に関する協定」を締結。翌3日には、AMDA、徳島県、阿波銀行の3者による「南海トラフ巨大地震等における医療救護活動に関する協定」、美波町との「大規模災害時の支援に関する協定」を締結しました。また、3月14日、大規模災害発生時の医薬品を中心とした支援物資に関する連携を想定して株式会社ザグザグとの連携を締結しました。



徳島県 坂東龍門知事、阿波銀行 大西康生代表取締役専務、美波町 影治信良町長とともに



高知市 岡崎誠也市長とともに



須崎市 楠瀬耕作市長とともに



黒潮町 大西勝也町長とともに



(株)ザグザグ 藤井社長とともに

おかやま国際塾5期生 募集開始

社会のグローバル化に対応できる人材養成を目指した、AMDA と岡山大学教員が共同で運営する「おかやま国際塾」実行委員会では、岡山県内の大学生を対象とした第5回「おかやま国際塾」への参加者を募集しています。

8月下旬の海外研修(渡航予定先:ベトナム)に向けて、国内での事前準備や事前学習など含むプログラムとなっています。たくさんのご応募をお待ちしております。

詳細は WEB をご覧ください。

<http://okayamakokusaijuku.web.fc2.com/>

AMDA 高校生会 高校生フォーラム開催



4月5日「ゆうあいセンター」(岡山市)を会場に、AMDA 中学高校生会・AMDA の主催で第2回高校生フォーラム「繋がる高校生、広げようボランティアの輪」を開催しました。AMDA 中学高校生会の参加者13人を含む、一般高校生など約40人が来場。5つのグループに分かれ被災地の支援、岡山での防災等高校生ができるボランティアについて話し合いました。

事務局からのお知らせ

AMDA 高校生会が AMDA 中学高校生会に名称変更

これまで AMDA 高校生会は、学生にできるボランティアをコンセプトに自主性をもって高校生を中心に活動してきましたが、中学生の参加希望者も多くなってきたことから、4月1日をもって AMDA 中学高校生会に名前を変更することになりました。

国際協力やボランティアに興味のある中学、高校生の皆さん、ぜひご参加ください!

AMDA 学生会員 会費変更

4月1日から学生会員の会費額を値下げしました。

学生の皆さんは、年間3000円で AMDA 学生会員となることができます。会員特典として、定期的に会報が届きます。これを機に、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



倉敷アカデミックウィングス様



朝日塾幼稚園様



(株)中野コロタイプ様